

## マルコの福音書 6:30-44 キリストのあわれみ

今日はマルコの福音書の学びをマルコ 6:30 から再開します。まず、ここまでの経緯を思い出してください。JP が 3 週間前に取り上げた 7 節からの部分で、イエスは 12 人の弟子たちを周辺の村々に宣教に遣わされました。彼らは福音を宣べ伝えイエスの名を広めたため、ローマ帝国が認めた支配者だったヘロデ王自身がイエスのことを耳にするに至りました。カズさんが先週、この個所について説教をしてくださいましたが、ヘロデ王はイエスが、自分が死に追いやったバプテスマのヨハネのよみがえりであると信じていたため、恐れていました。今日の箇所は、弟子たちが最初のミッションを終えてイエスのもとに戻ってくるころから始まります。30 節から読みましょう。さて、使徒たちはイエスのもとに集まり、自分たちがしたこと、教えたことを、残らずイエスに報告した。この節は、次の箇所の始まりとしてではなく、弟子たちが遣わされ始めた部分の最後としてみる事ができます。バプテスマのヨハネが斬首された話が、弟子たちが遣わされたことと、弟子たちが戻ってきたこととの間にあるのには、神学的な理由があります。バプテスマのヨハネが神の召命に忠実に従ったがゆえに払うこととなった犠牲を示すことで、弟子であることによって支払う高い代価を私たちに示しています。弟子であるということは、キリストのために自分を犠牲にすることを厭わないということの意味するべきです。弟子たちは、キリストによって遣わされたことを強調するため、ここでは使徒と呼ばれていますが、バプテスマのヨハネと同じ運命をたどることを承知で出かけていきました。つまり、キリストの弟子として、キリストのためにすべてを犠牲にすることを厭わないのだという点が、この箇所の残りの部分の土台となっています。実際、使徒パウロは聖霊を通して、キリストのために命を失うことを厭わないという考え方は、キリストに従う者としての自分の人生を特徴づける点の一つであると語っています。コリント人への手紙第二 4:11 には「私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。」とあります。つまり、そのような考え方や心構えが、キリストに従う者のうちにあるべきだということです。ですが、そのような考え方や自己犠牲の心を養おうとするとき、ストレスの多い過酷な日々を何の助けもなく送るということではありません。事実、マタイの福音書 11:28-30 でイエスはこのように言っています。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもて来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

弟子たちに求められる犠牲の上に、イエスのこの言葉を重ねて、マルコの福音書 6:31 にあるイエスの言葉を見てみましょう。「するとイエスは彼らに言われた。「さあ、あなたがただけで、寂しいところへ行って、しばらく休みなさい。」出入りする人が多くて、食事をとる時間さえなかったからである。」弟子の生活には犠牲が必要ですが、弟子の生活は仕事中毒であることでもありません。もちろん怠けることを意味することでもありません。ですが、神の創造のご計画と人の創造に組み込まれているのは休息の必要性です。神ご自身が天地創造の一週間において 7 日目に休まれて、この型を私たちに示されました。そして十戒においては、神はこの安息という考えをイスラエルの民の生活に定められました。出エジプト記 20:8-10 で第四戒はこのようにあります。「安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。9 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。10 七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。」イエスに従うこと、イエスが言われる「くびき」は軽いと言われたことに反することなく、イエスにある奉仕には休息が必要であり、求められるものでさえあります。彼らはフルタイムで奉仕をおそらく何か月も続けてきており、今は休む時だとイエスは言われました。その休息はミニストリーから、そして人々から離れることを意味しました。イエスはご自分の民がミニストリーの厳しい要求から決して逃れないことを期待しておられるわけではありません。地域教会でミニストリーをリードする私たちは、そのことを常に心に留めておくべきです。サンデースクールの先生たちも休みが必要ですし、賛美チームの人々も練習を必要とせず、に会衆の一部として礼拝に集中するときが必要です。教会スタッフも休みの日には仕事をせずに

休息するよう促される必要がありますし、時にはリフレッシュのために長期休暇も必要かもしれません。長老や執事も、休暇が必要であっても継続して奉仕することを求められるのではなく、退任を認められ、その働きにただ感謝されることが許される必要があります。

けれど、キリストに従う者にとって、休息をとるべきだと分かっている時であっても、急を要するミニストリーの必要のために、休息をとる時間が奪われてしまうのが事実です。それは弟子たちとイエスについても同じことで、弟子たちがイエスとの関係の中でリフレッシュできるよう、ただ休まる場所を探そうとしているときでさえ、そうでした。32-36節を見てください。「32 そこで彼らは、自分たちだけで舟に乗り、寂しいところに行った。33 ところが、多くの人々が、彼らが出て行くのを見てそれと気づき、どの町からもそこへ徒歩で駆けつけて、彼らよりも先に着いた。34 イエスは舟から上がって、大勢の群衆をご覧になった。彼らが羊飼いのいない羊の群れのようにであったので、イエスは彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた。35 そのうちに、すでに遅い時刻になったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここは人里離れたところで、もう遅い時刻になりました。36 皆を解散させてください。そうすれば、周りの里や村に行き、自分たちで食べる物を買うことができるでしょう。」」イエスと弟子たちは、必要としていた安息を得るために、ガリラヤ湖に面した人気のない場所に向かいました。ですが、時に神のご計画は、私たちの力量に関係なく、成し遂げるべきミニストリーのために、神の超自然的な力に頼ることである場合もあります。人々を愛し、思いやりを示す必要のある時は、必ずしも都合の良い時にやってくる時は限らないことのひとつです。時には深夜に話し相手を必要とされる方もいます。救急に運ばれるので祈りを必要とされる方もいるでしょう。またある時は、食べ物が必要としている見知らぬ人や隣人がおられるかもしれません。

今日の箇所では、実際に二つの種類のあわれみを見ることができます。そこにあるように、イエスが群衆をあわれまれたように、弟子たちもまた群衆にあわれみを覚えましたが、そのは2つの異なるあわれみとしてみるすることができます。イエスは霊的なあわれみを示されました。目的も、自分たちの真の存在価値もわからずさまよっている羊のような人々は、自分たちが霊的に誰なのかを教えてくれる羊飼いが必要であるという、人々の霊的必要をイエスは見ておられました。つまり、イエスは人々に、創造主である神の前に彼らが何者であることを示そうとされたのです。イエスのメッセージは常に、悔い改めと救い主であり主であるご自分への信仰のメッセージでした。悔い改めに至るためには、神の前に私たちの罪を理解しなくてはなりません。ローマ人への手紙 3:23にある「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」という真理に向き合わなくてはなりません。イエスのあわれみは、人々の霊的な状態、つまり人々を神から遠ざけ、この世で本当のいのちを奪う罪の性質に注がれていました。私たちを創造主である神との正しい関係に導いてくださるイエス・キリストがおられなければ、私たちもそのような状態なのです。安全な場所に導いてくれる羊飼いなしには危険に飛び込んでしまう羊のように、私たちは目的もなくさまよって歩くのです。事実、イザヤ書 53:6は「私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。」と言っています。これが罪の中にある私たちの状態なのです。自分にとって最も理にかなった方法で生きようとして、迷いながら人生をさまよっているのです。ですが、この箇所では、メシアであるイエスが良い羊飼いとして、私たちを救うために何をしてくださるのかを予言しています。神はみ言葉の中で、「しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。」と言われます。ですから、イエスはあわれみをもって群衆を見られたとき、彼らの壊れた霊的な状態と、救い主としてイエスを必要としている姿を見ておられたのです。

ですが、弟子たちもあわれみを持っていました。そのあわれみは、人々の人間的な必要に対する、肉体的なあわれみでした。彼らは、イエスの教えにおそらく数時間耳を傾けたあと、食べ物を必要としていた、飢えた群衆を見ました。また、その場所でそのような必要を満たせることには限りがあることも知っていました。レストランもなければ、屋台もありません。彼らが町や村を逃れて、人里離れた場所で休もうとしていたことを思い出してください。人々を解散させ、彼らが自宅やその地域の村々に戻り食べ物を得られるようにすべきだとイエスに求めることは、冷

たい要求というよりも、むしろあわれみゆえの要求でした。他に人々が食べることのできる方法があったでしょうか。彼らが周囲の人たちの必要に対してあわれみを示そうとするならば、人々の空腹を覚え、その必要を満たす実際的な手段を見つける必要がありました。彼らが気づけなかったことは、イエスに在って霊的、肉体的どちらのあわれみも同時に示すことができるということです。この個所に続く信じられないような奇跡を通して、それを見ることができます。37-44 を読みましょう。「37 すると、イエスは答えられた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」弟子たちは言った。「私たちが出かけに行って、二百デナリのパンを買い、彼らに食べさせるのですか。」38 イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて来て言った。「五つです。それに魚が二匹あります。」39 するとイエスは、皆を組に分けて青草の上に座らせるように、弟子たちに命じられた。40 人々は、百人ずつ、あるいは五十人ずつまとまって座った。41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂き、そして人々に配るように弟子たちにお与えになった。また、二匹の魚も皆に分けられた。42 彼らはみな、食べて満腹した。43 そして、パン切れを十二のかごいっぱい集め、魚の残りも集めた。44 パンを食べたのは、男が五千人であった。」イエスの行いを通して、霊的な必要と肉体的な必要とに対するあわれみが共に満たされることで、神の力が示されました。イエスはその力でこれらの必要を満たしてくださるのです。私たちが自分の力でこれらの問題を解決しようとするとき、私たちはストレスを感じ、無駄な努力をすることになります。もし弟子たちが自分たちだけで物事を進めていたら、どんなに悲惨な状況になっていたか、どんな問題が生じていたか考えてみてください。何千人もの人々をもうすぐ暗くなるという中行かせれば、強盗に襲われたかもしれないし、近くの村々に十分な食料もなかったかもしれない。高齢者や体の弱い人々は、一番近い休める場所までたどり着けず、途中で倒れてしまう危険もあったでしょう。これらはすべて推測に過ぎず、私たちが知る由もないことは分かっています。ですが、少なくともこの群衆がイエスの話を聞いて、空腹のまま立ち去ることはありませんでした。イエスは奇跡的な方法で必要を満たされたのです。現代の「学者」と呼ばれる人の中には、この奇跡のからくりを説明しようとする者が多くあります。福音を書いたヨハネは、その福音書6章で、この5つのパンと2匹の魚は少年が持っていた昼ご飯がもたらした結果であるとしています。この奇跡についての聖書的でない説の中で、最もよく知られているものは、この少年の気前の良さが、他の人々も自分が持っていた食べ物を気前よく差し出すことにつながったというものです。ですが、この節は聖書に書かれていることに反しています。そこにはイエスが文字通り、どれだけ分けてもほぼ無限に増え続けるパンと魚を、すべての人に与え食べさせたとあります。さて、このような奇跡を説明するために科学的、あるいは心理学的な説明を捏造するほどまで、このことは私たちにとって不可能なことなのでしょうか。もちろん、人間的な理論上はその通りです。けれど、私たちを罪から救うことによって私たちの最大の必要を満たす力を持っておられる神様にとって、この程度の奇跡は大したことはありません。ルカによる福音書に、ある金持ちが救いの道を尋ねてイエスのもとに来ましたが、イエスの答えが気に入らず、イエスを拒絶して立ち去ったという出来事が記されています。そしてイエスはルカによる福音書18:24-26でこのように答えておられます。「イエスは彼が非常に悲しんだのを見て、こう言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」26 それを聞いた人々は言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」27 イエスは言われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。」」最も救いがたい人、最も救いの理由のない人、あるいは救いの必要性を感じていない人を救うことができになる神は、5つのパンと2匹の魚で何千人もの人々の空腹を簡単に満たすことができます。

ですが、素晴らしいのは、その力を発揮し、ご自分の目的を果たされるために、弟子たちを通して働かれることを、この出来事の中に見ることです。イエスがこの奇跡の中で、食べ物を分け与える働きをするよう指示した相手は弟子たちであったことに注目してください。弟子たちは少年が持っていた食べ物を見つけて、イエスのところへ持ってきました。弟子たちは人々を食べ物を配り、共に食べやすいグループに分けました。そして、人々は弟子たちの手から食べ物を受け取

り、それを食べました。では、神の御業において私たちの行動は重要なのでしょうか。もちろんです。神は御業を成し遂げられるのはご自分であるにも関わらず、ご自分の目的の達成のために私たちを用いられます。でもそれは、神の方法です。弟子たちがあわれみを示そうとした方法で、一部の必要を満たすことはできたかも知れませんが、人々にイエスご自身の真のご性質を示すことはできませんでした。弟子たちは、イエスに従い、イエスに命じられた方法で人々に奉仕することによって、肉体的な必要を満たされるのを見ただけでなく、イエスは肉体的な必要のみならず、救いという霊的な必要も満たすことがお出来になる神なのだという福音の真理が、人々に直接突きつけられるのを見たのです。私たちが適用すべきは、私たちクリスチャンはあわれみを示すように召されているということです。肉体的な必要を満たすように召されているということです。私たちの多くにとって、それは一対一あるいは家族との間で起こることです。他の人たちにとっては、例えば能登ヘルプと関わって国のレベルで働くことを意味するかもしれませんし、水などの基本的なものさえ事欠く人々にキリストは希望をもたらすことができることを示すため、非常に困難かつ現実的な方法でキリストに在る信仰を實踐し、アフガニスタンで亡くなられた中村哲医師のように、国際レベルで働くことを意味するかもしれません。

キリストに従う者として、皆さんや私たち教会に、神がどのような方法であわれみを示す扉を開いてくださるにせよ、我々の努力に最終的な必要なのは、神ご自身の力であるという事実を、私たちは決して見失うべきではありません。そして、孤児や未亡人に対するケア、必要のある方たちに衣食を提供すること、病の中にある方を助けることなど、私たちクリスチャンがあわれみを示すためになせることはすべて、人々に主イエス・キリストを指し示すものでなくてはなりません。彼らの必要や私たちの援助に光をあてるのではなく、単に肉体的な必要を満たしてくださるだけでなく、罪の赦しというはるかに大きな霊的な必要を満たすことができる私たちが仕えるキリストを、人々は見ることがあります。ですから、もちろん私たちはクリスチャンとしてあわれみを示すべきですが、キリストを明確に指し示すことなく、ただあわれみを示すだけにとどまるなら、本当の意味でキリストの働きに加わっている訳ではありません。キリスト教に基づいた救済活動は世界中で行われていて、私たちの街や国でも、肉体的必要は満たされていますが、キリストのご性質は宣べ伝えられていません。ですが、5000人以上の人に食べ物を与えたことに見られる真のクリスチャンのあわれみは、必要を満たすだけでなく、人生において最も必要なことは罪に対する神の怒りからの救いであることに気づいていないであろう人々にキリストを指し示すことです。お祈りします。

## Mark 6:30-44 Christ's Compassion

Today we pick back up our study in Mark at Mark 6, verse 30. Now, remember what has led up to this point. Jesus, starting back in verse 7 that JP covered three weeks ago has sent out his 12 disciples on a mission to the surrounding villages. They preached the gospel and made such a name for Jesus that King Herod himself, the Roman approved ruler of the area heard about Jesus. Kazu-San preached on this last week, and of course Herod was frightened because he seemed to believe that Jesus was a resurrected John the Baptist, whom he had put to death. In today's passage we begin with the disciples return to Jesus after that first mission they were sent on. Let's begin reading at verse 30.

<sup>30</sup>The apostles returned to Jesus and told him all that they had done and taught.

Now, this verse could be seen, not as starting this next passage, but as ending a complete section beginning with the disciples being sent. There is a good theological reason why the story of John the Baptist's beheading is sandwiched between the sending of the disciples and their return. By showing the sacrifice that John the Baptist made as he was faithful to God's call on his life, it shows us the high cost that comes with being a disciple. **Being a disciple must mean being willing to sacrifice one's self for Christ.** These disciples, now called apostles here, to emphasize their being sent out by Christ, went out knowing their fate could be the same as John the Baptist. So, that emphasis on that willingness to sacrifice all for the sake of Christ as his disciple, lays the foundation for the rest of the events in this passage. In fact, the Apostle Paul through the Holy Spirit says that the idea of being willing to lose our lives for Christ was one of the defining characteristics of his life as a follower of Christ. [2Corinthians 4:11](#) says, *For we who live are always being given over to death for Jesus' sake, so that the life of Jesus also may be manifested in our mortal flesh.* So that mindset and way of thinking should be present in the follower of Christ. But, when we cultivate that way of thinking and that heart attitude of sacrifice, that does not mean that we take on a life of stressful harsh days with no relief. In fact, Jesus says, in [Matthew 11:28-30](#), *28 Come to me, all who labor and are heavy laden, and I will give you rest. 29 Take my yoke upon you, and learn from me, for I am gentle and lowly in heart, and you will find rest for your souls. 30 For my yoke is easy, and my burden is light.*"

With those words of Jesus in mind overlaid on top of the sacrifice required of disciples, look at what Jesus says as we continue in Mark 6:31. <sup>31</sup> *And he said to them, "Come away by yourselves to a desolate place and rest a while."* **For many were coming and going, and they had no leisure even to eat.** The life of a disciple requires sacrifice, but the life of a disciple does not mean that you should be a workaholic. Of course, it cannot mean laziness, either. **But built into God's design for creation and for His ultimate creation of humans is the necessity of rest.** God himself shows us this pattern in the creation week as He rests on the 7th day. Then in the 10 Commandments, God institutionalizes this idea of a Sabbath rest into the life of the people of Israel. [Exodus 20:8-10](#), the 4th commandment reads, *8 "Remember the Sabbath day, to keep it holy. 9 Six days you shall labor, and do all your work, 10 but the seventh day is a Sabbath to the Lord your God. On it you shall not do any work, you, or your son, or your daughter, your male servant, or your female servant, or your livestock, or the sojourner who is within your gates.* In line with Jesus saying that the burden of following him, his "yoke" as he calls it, is light, there is still rest needed and even required in the service of Jesus. These men had been ministering full time for possibly months and now Jesus tell

them it is time to rest. And that rest would involve time away from ministry and people. Jesus does not expect his people to never take a break from the intense demands of ministry. For those of us who lead ministry within the local church we should always keep that in mind. Sunday School teachers need breaks, Musicians and vocalists need time to focus on worshipping as part of the congregation and not having to practice. Church staff need to be encouraged to take their time off and not work on their holidays, perhaps sometimes they need a sabbatical for a longer time of refreshment and renewal. Elders and Deacons need to be allowed to step down and simply thanked for their ministry rather than pushing them to continue to serve when they know they need a break.

But the fact is that for followers of Christ, even when we try to take the rest we know we should, **there are ministry needs that are pressing that take away time to rest.** That is the case for the disciples and Jesus, even as they are trying to find a place to simply rest with Jesus and be refreshed in their relationship with him. Look at verses 32-36. <sup>32</sup> **And they went away in the boat to a desolate place by themselves.** <sup>33</sup> **Now many saw them going and recognized them, and they ran there on foot from all the towns and got there ahead of them.** <sup>34</sup> **When he went ashore he saw a great crowd, and he had compassion on them, because they were like sheep without a shepherd. And he began to teach them many things.** <sup>35</sup> **And when it grew late, his disciples came to him and said, “This is a desolate place, and the hour is now late.”** <sup>36</sup> **Send them away to go into the surrounding countryside and villages and buy themselves something to eat.”** Jesus and his disciples were heading to a place somewhere on the sea of Galilee that was deserted so they could just be alone, and find that Sabbath rest that they needed. But the fact is that sometimes God’s plan for us is to have us rely on His supernatural strength in light of ministry that has to be accomplished regardless of our level of strength to do that ministry. The need to love people, and show compassion towards people is one of those activities that does not always come at a time that is convenient. Sometimes it is the person who needs to talk late at night. Sometimes it is someone going to the emergency room who needs prayer. Other times it may be a stranger or a neighbor who needs food.

In this passage, we actually see two kinds of compassion. I would say that just as we were told that Jesus had compassion on the crowds, the disciples also had compassion on the crowds, but the compassion was seen in two different ways. Jesus had spiritual compassion. He saw their spiritual needs, that like sheep wandering around with no purpose and no awareness of their true existence, they needed a shepherd to teach them who they were spiritually. That meant that he would show them who they were before God their creator. Jesus’s message all along has been the message of repentance and faith in himself as Savior and Lord. In order to come to repentance, we have to understand our sin before God. We have to be confronted with the truth of [Romans 3:23](#) that **all have sinned and fall short of the glory of God** Jesus’s compassion was focused on their spiritual condition, on their sin nature, that kept them separated from their God and without real life in this world. This is how we are, this is how you are without Jesus Christ who brings us into a right relationship with God our creator. We are wandering around with no purpose like a sheep who heading straight into danger with no shepherd to guide us to safety. In fact [Isaiah 53:6](#) says, **All we like sheep have gone astray; we have turned—every one—to his own way** This is our condition in sin—we are wandering through life lost trying to live in whatever way makes

the most sense to us. But then the verse concludes by prophesying what the Messiah, Jesus, would do in order to save us so he could be our Good shepherd. God tells us there in His Word, **...and the Lord has laid on him the iniquity of us all**. So when Jesus looked at the crowd with compassion he saw their broken spiritual condition and their need of him as their Savior.

The disciples, though, also had compassion. Their compassion was physical compassion towards their human needs. They saw a hungry crowd, a crowd that had listened to Jesus teach for maybe several hours, and needed food. They also saw that their ability to meet that need in that location was limited. There were no restaurants around or food vendors. Remember, they had tried to escape the cities and villages to a remote place to rest. Rather than being a cold request, this recommendation to Jesus that they should disperse the crowds so they could get back to the homes and villages in the area to get food was actually a request of compassion. How else could these people eat? If they were going to be people of compassion towards the needs of the people around them, then they needed to show concern for their hunger and find practical ways to meet that need. **What they failed to realize is that in Jesus, both types of compassion were reconciled – the spiritual and the physical.** That is what we see as this passage continues with an incredible miracle. Let's read verses 37 through 44. **<sup>37</sup> But he answered them, "You give them something to eat." And they said to him, "Shall we go and buy two hundred denarii worth of bread and give it to them to eat?" And he said to them, "How many loaves do you have? Go and see." And when they had found out, they said, "Five, and two fish."<sup>39</sup> Then he commanded them all to sit down in groups on the green grass. <sup>40</sup> So they sat down in groups, by hundreds and by fifties. // <sup>41</sup> And taking the five loaves and the two fish, he looked up to heaven and said a blessing and broke the loaves and gave them to the disciples to set before the people. And he divided the two fish among them all. And they all ate and were satisfied.<sup>43</sup> And they took up twelve baskets full of broken pieces and of the fish. <sup>44</sup> And those who ate the loaves were five thousand men.** Through Jesus's actions, God's power is displayed in a way that the compassion for spiritual needs is combined with a meeting of physical needs. And **Jesus fills those needs through his power.** It is when we attempt to resolve those problems in our own strength that we stress and work to no avail. Just think how disastrous it would have been and the problems that would have resulted if the disciples had done things on their own. Letting the crowd of thousands go into the night into coming darkness could have meant robberies, local villages not having enough food for everyone. Older and frailer members of the crowd would have been in danger of not making it to the closest rest areas and might collapse on the road. I know all of these are just speculation, and we cannot know. But at the very least, the crowds did not leave hungry from listening to Jesus.

Jesus met the need in a miraculous way. There are plenty of modern so-called "scholars" who try to find many ways around this miracle. The Gospel writer, John in John 6 tells us that these five loaves of bread and two fish were the result of a little boy's lunch he brought with him. The most popular of these unBiblical theories for this miracle says that this example of generosity by the young boy caused everyone else to be generous with the food they had brought. But this goes against what the Bible directly says. That Jesus literally fed everyone there from these nearly endless bread and fish that continued to grow as he broke it into pieces. Now is this impossible by our way of thinking, giving us a need to fabricate scientific or psychological explanations for

these miracles? Yes, of course from human reasoning. But for the God who has the power to meet our greatest need by saving us from sin, a miracle on this order is no big accomplishment. There is an incident in the gospel of Luke where a rich man comes to Jesus to ask for the way of salvation and doesn't like Jesus's response and leaves rejecting Jesus. Then Jesus responds in [Luke 18:24-26](#), [24 Jesus, seeing that he had become sad, said, "How difficult it is for those who have wealth to enter the kingdom of God! 25 For it is easier for a camel to go through the eye of a needle than for a rich person to enter the kingdom of God." 26 Those who heard it said, "Then who can be saved?" 27 But he said, "What is impossible with man is possible with God."](#) The God who can save even the hardest person to save, the person who sees the least reason or need for salvation, can easily feed thousands of people with 5 loaves of bread and 2 fishes.

But the great thing is that we see in this event that He works through his disciples to exercise that power and accomplish his purposes. Notice that it is the disciples that he instructs to basically carry out the work of the feeding that will happen through his miracle. The disciples find the food the boy has brought and bring it to Jesus. The disciples divide the people up into manageable groups to eat together and be served. And it was from the disciples hands that the people received the food from that they eventually ate. So, are our actions important in God's work? Absolutely! God uses you and me to accomplish his purpose even though, it is God himself doing the work. But we do that work God's way. The way the disciples wanted to show compassion might have met some needs, but not showed the people the true nature of Jesus himself. By obeying Jesus and serving the crowds in the way he commanded, they not only saw physical needs met, but saw the crowds be directly confronted with the truth of the Gospel, that Jesus was God who could meet not only their physical needs, but their spiritual need of salvation. The application for us is that we as Christians are called to show compassion. We are called to meet physical needs. For most of us that will happen one on one or one family to another. For others it may mean being involved at the national level through involvement with Noto Help for example or on an international level like Dr. Tetsu Nakamura who died in Afghanistan living out his Christian faith in a very difficult and real way to show the hope Christ can bring to people who lack even basics like water.

Whatever way God opens doors for compassion for you as his follower or our church as followers of Christ, we must never lose sight of the fact that it is God's power that is ultimately needed in our efforts. And the work we should find opportunities to do like care for the orphans and widows, feed and clothe those in need, help the sick, and all the things we as Christians can do to show compassion must point people primarily to Jesus Christ. Rather than highlighting their needs or our assistance, they need to see Christ, who we serve who can ultimately meet not just their physical needs, but their much greater spiritual need for forgiveness of sin. So, yes, we must be in the business of compassion as Christians, but if we simply show compassion without clearly showing Christ, then we are not really doing Christ's work. There is much Christian relief work being done around the world and some even in our city and country where physical needs are being met, but the nature of Christ is not being proclaimed. But true Christian compassion as seen in the feeding of the more than 5000 will not only meet needs but show Christ to people who likely don't realize their greatest need in life is salvation from God's wrath against their sin. Let's pray.